

項目	内容
名称	アカシア樹皮抽出物 [英]Black Wattle bark extract [学名]Acacia mearnsii de Wild
概要	アカシア樹皮抽出物は、オーストラリア原産でマメ科のモリシマアカシアの樹皮から熱水抽出によって得られる。樹皮の熱水抽出物はポリフェノールを多く含み、接着剤や皮革製品の皮なめしなどに利用されている。
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モリシマアカシア樹皮：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。</li> </ul>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カテキン、ガロカテキン、ロビネチドール、フィセチドールなどを含む (<a href="#">PMID:23837032</a>) (<a href="#">PMID:21192716</a>) (2012061233) (<a href="#">PMID:16748810</a>) (113) (114)。</li> </ul>
分析法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹皮抽出物に含まれるタンニンを重量で測定するハイドパウダー法やスティアスニー法、またUV法で分析した報告がある (114)。</li> <li>・樹皮抽出物に含まれるポリフェノールをスティアスニー法で分析した報告がある (115) (116) (117)。</li> <li>・樹皮抽出物に含まれるプロアントシアニジンオリゴマーをNMRおよびMALDI-TOF-MSで同定した報告がある (<a href="#">PMID:21192716</a>)。</li> </ul>
有効性	

循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	<p><b>RCT</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐糖能異常（糖負荷試験の120分値が140 mg/dL以上200 mg/dL未満）の成人34名（試験群17名、平均49.6±1.5歳、日本）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、アカシア樹皮抽出物より調製したアカシアポリフェノール250 mg/日を8週間摂取させたところ、空腹時の血糖値、インスリン値、HOMA-IR、HbA1cに影響は認められなかった(<a href="#">PMID:23837032</a>)。</li> <li>耐糖能異常（糖負荷試験の120分値が140～199 mg/dL）の成人13名（平均50.77±7.3歳、日本）を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、アカシア樹皮抽出物より調製したアカシアポリフェノール250 mg（プロアントシアニジン120 mg含有）を単回摂取させ、5分後に白米200 gを摂取させたところ、白米摂取後120分までの血糖値 (IAUC) とインスリン値 (IAUC) に影響は認められなかった (2017175776)。</li> </ul>
ヒト	調べた文献の中に見当たらない。
で	調べた文献の中に見当たらない。
の	調べた文献の中に見当たらない。
評価	調べた文献の中に見当たらない。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	<p><b>RCT</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>顔や手にムズムズ感のある健康な成人60名（試験群30名、平均44.3±9.8歳、日本）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、アカシア樹皮抽出物（カテキン180 mg/日、プロアントシアニジン245 mg/日含有）を8週間摂取させたところ、顔の経表皮水分蒸散量の減少が認められた。一方、手の経表皮水分蒸散量、顔および手の皮膚表面水分量、つや、粘弾性、皮膚疾患評価尺度 (Dermatology Life Quality Index) のスコア、かゆみの自己評価 (VAS) に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:30526388</a>)。</li> </ul>

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳  
(80) 植物レファレンス事典 日外アソシエーツ  
[\(PMID:23837032\) Exp Ther Med. 2013 Jun;5\(6\):1566-1572](#)  
[\(PMID:21192716\) J Nat Prod. 2011 Feb 25;74\(2\):119-28](#)  
(2012061233) 応用薬理. 2011;80(3-4):43-52.  
(113) J.C.S Chem Comm. 1978;(16):700-2.  
(114) J.C.S.Chem Comm. 1979;(11):510-2.  
(115) Holzforschung. 1993;47:57-61.  
(116) Holzforschung. 1988;42:407-8.  
(117) Aust For. 1990;53(3):148-53.  
(2017175776) 薬理と治療. 2016;44(10):1463-9.  
[\(PMID:30526388\) Biosci Biotechnol Biochem. 2019 Mar;83\(3\):538-550.](#)  
[\(PMID:16748810\) Biochem J. 1960 Jan;74\(1\):44-9.](#)